

地域医療研修 研修レポート

名古屋第一赤十字病院

今回、地域医療研修として新城市民病院 総合診療科で1ヶ月の間、多くの方々にご指導をいただき、数多くの経験を得ることができましたので、レポートとしてご報告させていただきます。

この1ヶ月、多くの時間を総合診療科の初診外来で研修させていただきました。普段研修している病院でも救急外来や総合診療科での研修で初診の患者さんを診察する機会はあるのですが、どちらの場合においても一度の診察のみで終了してしまうことがほとんどでした。そのような状況では、その後症状がどのように変化したのか、自分が処方した薬は果たして効果があったのだろうかという情報は中々自分の元には戻ってきません。一方、新城では自分でファーストタッチをした患者さんをそのまま次の外来でフォローすることができ、長い経過で診療を行うことができました。そのような経験は非常に新鮮なもので、予想通りにはいかないことも多く難しくもありましたが、非常に楽しい思いをすることもでき有意義でした。

また、総合診療科の先生方が **EBM** を非常にスムーズに臨床のなかで活用されていることに驚嘆しました。**EBM** は言葉としては頻繁に耳にするものですが、今まで自分の中では机上のものであるという印象が強く、またそれを実践している先生にも出会ったことがありませんでした。しかし、総合診療科の先生方は入院に限らず、外来といった時間の限られた診療の場においても、すぐさまエビデンスに基づく医療情報にアクセスし、その場で目の前の患者さんに適応し検査や治療の方針を決定していました。論文や **UpToDate** のような情報源はハードルが高く、すぐさま臨床に結びつくものではないと考えていましたが、このような診療の進め方があることを知って驚くとともに、それを見ることで得ることのできた経験を今後の自分自身の診療に活かしていきたいと思います。

研修中には新城市民病院内に限らず、作手診療所、訪問リハビリ、訪問看護、老健、助産所など多くの施設へ見学をさせていただきました。普段は病院から離れて研修することではなく、院内での医療しか目にするのではないので、自分の中での医療は患者さんが退院する所までで止まっていたのですが、今回多くの施設、はたまた患者さんの自宅にまでお邪魔させていただいてその様子を見学させていただいたことで、退院した後にも多くの施設が情報を共有し、それぞれの患者さんに適した支援を続けていくことの重要性を知り、目の前の特定の疾患の治療をするだけでなく、その後ろにある多くの要素まで考えて包括的に医療をすることの必要性を実感することができました。

最後に、この1ヶ月間、総合診療科の先生方をはじめ病院のスタッフの方々、多くの施設の方々には大変お世話になりました。このような貴重な機会をいただけたことを大変ありがたく感じています。本当にありがとうございました。